

稲刈り後は**早期排水対策の徹底を！** **土壌の酸度矯正も忘れずに！**

1. 排水対策で収量・品質UP！

麦作にとって、排水対策は最も重要な技術です。播種時の土壤水分を低くすることで、①播種・出芽の精度向上、②除草剤の効果安定、③麦の生育改善や収量・品質の向上が期待できます。

2. 溝掘いをいち早く行い水田を乾かしましょう！

稲刈りが終わったほ場から順次溝掘りを行いましょ。播種時期を見据え、乾くタイミングを逃さず排水溝を設置し、スムーズに播種が行えるよう準備を進めましょ。10月上旬までを目途に作業を行います。

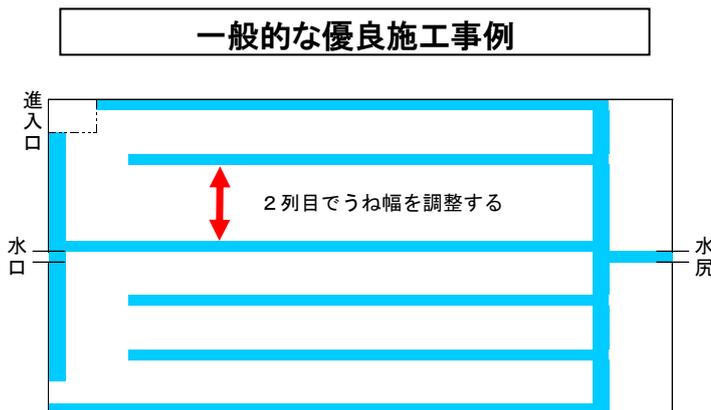


オーガ式溝掘機等で
しっかりした排水溝を作る

ほ場表面の滞水が目立つ場合は、無理に機械作業を行うとほ場が荒れるため、まずは中干し溝等を利用して表面滞水の解消を促しましょ。

3. 排水溝(明きょ)は水尻まで流れるように！

溝のつなぎ目を連結する、水尻に向かって深くする 等で、水口から水尻までスムーズに排水されるようにしましょう。暗きょ排水と補助暗きょや心土破碎を組み合わせた排水も効果的です。



4. 土壌の酸度矯正も忘れずに！

麦は酸性に弱い作物です。土壌 pH6.5 を目標に、アルカリ資材を散布し、酸度矯正をしましょう。苦土石灰の場合、100 kg/10a が目安です。

5. 稲わらすき込みや堆肥施用で土づくりを！

前作の稲わらは焼却せず全量をすき込みましょう。

水稻単作と比べて、水稻—麦—大豆等の輪作体系では地力が低下する傾向があります。地力維持や土壌物理性改善のため、堆肥利用も検討しましょう。